

第3回 海岸林見学学習会（砂草地編）

「海岸砂草地の生物多様性」

山形大学農学部 林田光祐

1. 東日本大震災と海岸の生物多様性

- ・ 3.11 東北地方太平洋沖地震の津波によって海岸林は壊滅的な被害を受けた。
- ・ 被災した海岸林の復興 — 単なる再造林ではなく、多重防御の一つとして積極的に津波被害軽減機能を発揮させる新しい海岸林が求められている。
- ・ 被災状況や地域の実情さらには地域の生態系保全の必要性等をふまえ、生物多様性に配慮して海岸防災林を再生させる。
- ・ 「みどりのきずな」再生プロジェクト構想 — 盛土してクロマツ等を植栽する。
- ・ 復興工事で失われる希少生物の生息環境  
現場での話し合いや工事方法の工夫による回避の模索が続いている。

2. 生物多様性国家戦略 2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～

- ・ 平成 24 年 9 月 28 日に閣議決定。
- ・ 生物多様性に配慮して海岸防災林の再生に取り組む。
- ・ ウミガメやコアジサシなどの生物の生息地となっている砂浜を保全する。
- ・ 自然度の高い海岸植物群落については、国立・国定公園の指定などによる保護区の拡充を検討する。

3. 砂浜海岸の生物多様性

- ・ 生物多様性とは、多様な生物と一緒に生活していること。
- ・ どのスケールで捉えるかが大事
- ・ 砂浜海岸にしか生息しない生物は、種数が少なくとも、大きなスケールでは重要。
- ・ 砂浜海岸は成帯構造を示すのが特徴。  
汀線から内陸へ少しずつ相観が変化し、帯状に植生が変化する
- ・ 海岸植物—海岸の厳しい環境に適応している植物  
耐塩性、強風・飛砂・堆砂に強い。ハマニガナ、ウンラン、ハマボウフウ等
- ・ 砂浜海岸だけに生息する生物—イソコモリグモ、ヤマトマダラバッタ等
- ・ 日本の海岸植物 280 種のうちの 83 種が絶滅危惧種。
- ・ 海岸生物の衰退の原因  
砂浜の面積減少 — 護岸工事、漂砂の減少、海岸林造成、風力発電施設建設等  
人為的破壊 — 車の走行、漂着・不法投棄ゴミ等  
外来植物の導入 — オオハマガヤ（アメリカンビーチグラス）等

4. 庄内海岸砂丘地の生物多様性

- ・ 自然海岸はどのくらいあるのか？ 海岸線総延長の約 6 割
- ・ 海浜植物帯はどのくらいあるのか？ 海岸線総延長の約 3 割  
イソコモリグモとヤマトカラバッタも生息
- ・ 海岸自然草地はどのくらいあるのか？ 海岸線総延長の約 3 割  
ここに絶滅危惧種の海岸植物が多く生育
- ・ 重要な海岸砂草地はどこにあるのか？ 最上川河口から赤川河口南までに集中
- ・ 外来植物オオハマガヤの分布は、庄内海岸砂草地のほぼ全域にわたる。

5. 海岸砂丘の地形とクロマツ林が植物種多様性に及ぼす影響

- ・ 防災機能と生物多様性を両立させることは可能